

2003年4月22日(火)

### 第3回世界自然遺産候補地に関する検討会

田部(環境省) おはようございます。予定の時刻がまいりましたので、ただいまより第3回目の世界自然遺産候補地に関する検討会を開催させていただきます。私は、環境省自然計画課長の田部でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、環境省の小野寺審議官より、まず一言お願いいたします。

小野寺(環境省) 小野寺です。よろしくお願いいたします。

ものすごいスピードでこの検討会を開催していきまして、かつ、今日は朝一番でご苦労さまです。ありがとうございます。お礼を申し上げたいと思います。前回で17地区に絞っていただいて、今日は17地区に係るデータを事務局から出してご説明をいたしまして、さらに議論を深めていただくという予定になっております。今日の議論によって次回の形が少し変わるかもしれませんが、来月下旬の予定になっております。よろしくお願いいたします。

田部(環境省) 続きまして、林野庁森林整備部の辻部長より一言ごあいさつをお願いいたします。

辻(林野庁) 林野庁の森林整備部長です。委員の先生方には熱心なご論議をしていただいており、心から御礼を申し上げたいと思います。

今、小野寺審議官からも話がございましたように、17地域まで絞り込まれたわけでございます。これらの地域は自然性の高い森林地域でもありますし、また、国有林の森林生態系保護地域が数多く含まれているといったような状況でございます。林野庁といたしましても、先生方に学術的、あるいは専門的なご論議をしていただきまして、候補地を選定して頂くようお願い申し上げまして、ごあいさつにかえさせていただきたいと思います。

ただ、所用で中座をいたすことになろうかと思っておりますので事前にお許しを願いたいと思います。

田部(環境省) どうもありがとうございました。

続きまして、本日の出席者でございますけれども、お手元の配席図をごらんいただきたいと思います。今日は7名の委員、全員ご出席をいただいております。どうもありがとうございました。また、環境省、林野庁側の出席者、それから外務省、文化庁からのオブザーバー出席者につきましても、お手元の配席図のとおりでございます。

議事に入ります前に資料の確認をさせていただきたいと思っております。お手元の資料を2枚めくっていただきますと、資料一覧表が出ておりまして、資料1から4まで添付させていただいております。もし足りない資料がございましたら、恐れ入りますが、事務局の方にお伝えいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、議事の進行を岩槻座長をお願いいたします。では、よろしくお願いいたします。

座長(岩槻) おはようございます。初めから座って失礼いたしますが、第3回目の検討会を開かせていただきます。今日も午前中ですので、2時間ぐらいの時間になりますが、慎重に検討させていただきます。

最初に、確認ですが、前回、17地域に絞っていただきました。本当は会合が終わる前に気づいて申し上げればよかったのですが、終わって直後に小泉委員とお話をしまして、地形では火山景観、山地景観、峡谷・渓谷景観、それから海岸景観・多島海景観と4つのカテゴリーに分けてご説明いただいて、最初の3つは候補になるところがありましたが、海岸景観・多島海景観については候補を見送ってしまいました。小泉委員も数がふえるのを遠慮されたようで、最後のところであまり積極的にどこということをおっしゃらなかったのですが、話をさせていただいているうちに、やはりこの地域の候補が全然ないというのは具合が悪いのではないかというような

ことで、ご説明のときに割合ウエートを置いておられた陸中海岸と山陰海岸との2地域を追加してはどうかということになりました。その後、委員の方々に個別にお話をした結果、その地域も入れた方がいいのではないかなというご意見の方が多かったので、19地域ということで事務局の方にも資料を準備していただいて、今日の話題にさせていただきたいと思います。まず最初に、そのことを委員会として確認させていただきたいと思います。小泉委員に最初にコメントをいただけたらと思います。

小泉委員 ちょっとご迷惑をおかけしたような格好になってしまったのですけれども、前回触れましたように、地形のカテゴリーは氷河地形などを含む山地、火山、渓谷を含む河川地形、それから海岸、海中、あともう1つ言えばカルストがありますが、これはちょっと面積が小さいということで前回見送っています。今お話がありましたように、山地、火山、河川関係は全部出ています。日本は島国ですから、本当は海をもうちょっと大事にしなくてはいけないのですが、前はちょっと話が出ましたが、候補として挙がるまでいかなかったのは海岸、海中の地形です。海岸、海中だと多島海の地形、それからリアス海岸のような入り組んだ地形と、まだほかにもたくさんありますが、大事なものを挙げるとこの2つになると思います。多島海としても、例えば西海、隠岐、対馬あたりですとか、すごいところはたくさんあるのですけれども、数もそんなに挙げることができないということで、日本の流域地域であって、非常に複雑に入り組んで、景観的にも素晴らしいところを挙げていくとすると、やはり陸中海岸と山陰海岸が残るのではないかなということで委員長とお話し申し上げまして、2つ候補にさらに加えさせていただくということをお願いしたわけです。できたら、こんな形で候補を2つ追加していただいて、全部で19カ所になりますけれども、ご検討をお願いしたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。

座長 個別には各委員、特にご反対はなかったのですが、委員会として、ここで今日の検討は19地区を対象にしてということで、どなたか何かコメントございますでしょうか。特にコメントがないようでしたら、19地区で検討させていただくということによろしいでしょうか。それでは、そのように今日の検討を始めさせていただきたいと思います。

本日は、2つ加えて19地域でということですが、その地域を世界自然遺産の候補地として詳細検討すべきと、この前の委員会の結論をそういうふうに見直させていただいて、その19の地域につきまして、学術的な見地から この委員会ではそこを強調しているということですが、世界遺産の登録基準 クライテリアとこれから呼ばさせていただきますけれども、そのクライテリアに照らし合わせて評価できるかどうかということが1つ。それから、もう1つは、もう既に幾つもの自然遺産が登録されているわけですが、そういう類似する既存の世界遺産登録地だとか、今挙げました国内の候補になる19地域の他の地域との違い、それから、この19地域のうちのそれぞれがどれだけすぐれているかというようなことについて、事務局に整理をしていただきました。今日は19地域について議論を深めていただくということですが、まだまだ調べるべきことは幾つもあるかと思しますので、それぞれの地域について、学術的な見地からクライテリアの適合可能性についての検討をし、調べていただいた類似する世界遺産との比較をしていただくというのが目的で、さらにこれを次回に向けて10ほどに絞るとか、そういうことは、適不適は今日は決めません。議論を詰めた結果、感じとしてどれが有力で、どれがそうでないというのは出てくるかもしれませんが、最終的に次のステップへ残すのはどれと言わずに、次のステップは今日の議論を踏まえて、さらに資料を整えて議論を進めていただくという、そういう形で今日の3回目の議論を進めていただきたいと思います。特にこれまで調べていただいている資料も、どんなにいいところかという話ばかりで、世界遺産の登録をするためには完全性ということが期待されるわけですが、そういうケチをつけるといいますが、そういうところは今日も議論に出てきてもちろんいいのですが、あまり議論を深める資料を十分整えていただけないということもありますので、そういう議論はむしろ次回へ譲って、次回で最終的に決めさせていただきたい。そういう格好で議論を進めさせていただきたいと思いますが、そういうことによろしいです

ね。特にそれでは具合が悪いというご意見があれば、最初に伺っておきますけれども、よろしいですね。

それでは、事務局の方でいろいろ資料を整えていただきましたので、19地域について、事務局のご説明を最初にいただきたいと思います。

奥田（環境省） 事務局の環境省の奥田と申します。座ってご説明させていただきしたいと思います。

それでは、詳細検討地域について、事務局の方で用意した資料、これは検討委員の先生方のご意見も伺いながら整理をさせていただいたものでございますけれども、これについて簡単にご説明申し上げたいと思います。

資料の方は全部で資料2、3、4の3つを用意してございます。一番厚いのが資料4でございますけれども、これが前回、フォーマットをご了承いただいた各地域の個票（案）ということになります。これに細かくいろいろ分析してございますけれども、これは非常に大部にわたって、今日の議論はこれを個々に見ながらというのは時間がないものですから、簡単にそのエッセンスを整理したものが総括表として横長の資料2に用意してございます。さらに、それぞれの詳細地域での保護区との重複状況、そこに確認されている動植物の種の状況についてデータの的に整理したものが資料3として用意してございます。また、机の上には、参考資料として各対象地域付近の既存の保護区の位置を示した参考用の供覧図面を置かせていただいておりますので、適宜ご参照いただけたらと思います。また、傍聴の方々のためには張り出している地図もございますので、後ほどごらんになっていただきたいと思います。

最初に断っておかなければいけないのですが、現段階でそれぞれ19地域と申しましても、大きな地域を広い視点で自然を評価すべきという、そういう段階でございますので、ここからここまでが範囲だという細かい地域設定は行ってございません。これはあくまで最終的な推薦段階で検討すべきことということで、今回はある程度広い範囲で、例えば一般的な何とか山地とか、何とか諸島といったような名称で範囲をご理解いただいて、その上でご検討いただけたらと思います。

それでは、資料2の説明にいきたいと思います。

一番上に1枚、簡単にクライテリアと完全性の条件について説明が書いてあります。先ほど座長の先生の方からご説明のあったように、この視点で、この辺をポイントにしながらご議論いただくということでございます。ただ、完全性の条件のところ、最初の回で説明した管理計画が必要であるとか、法律等による適切な保護が必要という横断的な条件については、一番下に漏れておりますけれども、それも念頭に置きながらご検討いただくということでご了解いただけたらと思います。

それでは、横長の表、全部でA3の紙が5枚ほどついているかと思っておりますけれども、こちらに沿ってそれぞれ簡単にご紹介していきたいと思っております。

このそれぞれの表は、前回ご説明いたしましたUdvardyというIUCN世界遺産委員会で使用している地理区分ごとに19地域を整理したものでございます。クライテリアに照らした評価の可能性と比較すべき国内外の既登録地等について、各地域ごとに整理してございます。先ほどご承認をいただいた海岸の地域、地形につきましては、必ずしも生物地理区分ということで分類するのは適当でないという判断のもとに、2-5になりますけれども、最後のページに整理してございます。

それでは、2-2のページをごらんになっていただきたいと思っております。こちらに整理してありますのは北海道の5地域でございます。

1番の利尻・礼文・サロベツ原野は、利尻・礼文のそれぞれの島嶼とサロベツの湿原とに区別されて評価されるかと思っております。そのポイントはここに書いてございます。また、2番知床、3番大雪山、それから5番の日高山脈については、いずれも氷河ですとか火山の地形並びに山岳生態系が評価される地域かと思っております。ただし、このうち知床のみが海岸を有しているという点で

若干区別されるのかなと考えております。4番の阿寒・屈斜路・摩周につきましては、前回の選考過程も踏まえますと、世界的規模のカルデラというのが地域として評価されておりまして、そのほか細かい地形ですとか森林生態系というものも評価されているかと思えます。比較すべき既登録地としましては、主として地理的に近いロシアの遺産地域、シホテ・アリン山脈ですとか、カムチャツカの火山群が挙げられてございます。個別にそれプラスの地域も挙げてございます。

北海道においては、一部の団体から、北海道の各地域はまとめて評価すべきではないかというようなご意見も出ておりまして、先生方にはお伝えしたところなのですが、とりあえず事務局としては、それぞれ個別の性格分けはできるものですから、今の段階では分けてご検討いただくのがいいのではないかということで、前回の整理のそのままにしてございます。この点はまた後ほどご議論いただけたらと思えます。

続きまして、1枚めくっていただきまして2 - 3ページをごらんください。こちらは東北・中部の4地域でございます。

6番の早池峰は蛇紋岩質の特性による山岳生態系が評価されております。

続きまして、7番の飯豊・朝日連峰、8番の奥利根・奥只見・奥日光は、主として多雪、雪の多い環境が作り出す生態系ですとか、8番の方は高層湿原が評価される対象として整理してございます。

9番の北アルプスは、主として氷河の影響を受けた山岳地形ということで代表されるのではないかと思いますけれども、そのほかにも幾つかここに並べてございます。比較すべき国内外の既登録地としましては、多雪という雪の多い環境が日本独特のものであるということから、それぞれ4つの地域間の比較がまずあるかと思えます。それから、ここに書いてありますけれども、白神山地が既に登録されている遺産としてございますので、こちらとの比較も非常に重要になってくるかと思われまます。海外との比較については、氷河の影響を大きく受けているロッキー山脈ですとかヨセミテなどの北米大陸の自然遺産、もしくはニュージーランドの南島の世界遺産、ここに出しているのは、ミルフォードサウンド、マウントクックというようなことで有名ですけれども、テ・ワヒポナムというものを掲げてございます。

白神山地も、参考までにここに同じような表にしましたけれども、これは最終的に評価された段階でのクライテリアを示したもので、東アジアを代表するブナ林というクライテリアのところしか埋めてございませぬけれども、実際推薦したときには、我が国としては、景観的評価のクライテリア、それから、クマゲラ等希少な野生動植物も生息地ということで、クライテリアについても推薦理由に掲げてございますので、その点、念頭に置いていただけたらと思えます。

続きまして、2 - 4ページに移っていただきたいと思えます。こちらの方は中部から九州までの南西日本の6地域でございます。

10番の富士山は成層火山と裾野に広がる溶岩の地形ですとか、その上の植生が評価されてございます。南アルプスについては、北アルプスと同様に氷河地形、さらにプレートテクトニクスといったもののあらわれですとか、多様な高山植物が評価の対象となっているかと思えます。比較すべきものとしては、富士山は火山ということでカムチャツカやハワイ火山などの火山性の世界自然遺産地域、同じ環太平洋火山帯に属する地域かと思えます。また、南アルプスは対照として国内の北アルプス、それからヨーロッパのアルプス、北米のロッキー山脈などとの比較対照として考えております。

12番から下、12、13、14は九州の山地でございます。それプラス15番の伊豆七島、この4つにつきましては、主として照葉樹林と九州の独特な地形が評価されたものかと思えます。特に12番と15番は照葉樹林のものですけれども、この12番の祖母山・傾山・大崩山、九州中央山地と周辺山地ということで、これは前回の先生方のご議論で、少し広くとるということにしたわけでございますけれども、供覧用の参考図面を見ていただければおわかりになるのですが、いわゆる照葉

樹林と考えられる地域はヤブツバキ域自然植生という自然環境保全基礎調査で代表されたものかと思います。ページとしましては、参考図面の12番及び14番の霧島山とまたがって地図が分かれておりますので、ほどいていただいで重ねてごらんになっていただければ、より分かるかと思えます。ごらんになっていただくように、このところは緑のヤブツバキ域の自然植生がおそらく照葉樹林に対応するところかと思えますけれども、広く、かなり細かく分断されて存在しているということ、それから、保護区を重ね合わせてみますと、実はそのヤブツバキ域の植生のメッシュの部分でなくて、むしろブナクラス域の自然植生が保護区域の対象として評価されているということで、どこを対象地域とするというのは非常に苦慮したポイントでございます。それと、どのように評価するというのも、ここでは総じて評価することにしましたけれども、これをごらんになっていただければ分かるかと思えます、事務局としては、作業の対象を確定するという面で若干大変だったということで、その点、ご紹介させていただきたいと思えます。この点はやはり九州の照葉樹林の特性というものかなというように思えますので、その辺についても後ほどいろいろご意見をいただけたらと思っております。

13番の阿蘇山につきましては、カルデラ地形ということが評価されております。14番の霧島山につきましては、その周辺に照葉樹林もかなりあるのですが、主として火山地形に基づく生態系が評価の対象となるかと思えます。

15番の伊豆七島につきましては、前回選んでいただいたときには、御蔵島の照葉樹林がポイントではないかということでご指摘をいただいております。それプラス、ある程度本土から離れた離島ということで、島嶼型の生態系についても評価の対象としております。ここでは比較すべき地域として、照葉樹林のポイント、1つには、もう既に登録されています屋久島、ここにも比較のために書いてございます。それから、中国の各遺産地域、12番の祖母とか九州山地のところの欄の右側の方に書いてございますけれども、こういったところが比較の対照となるのではないかなというように考えております。それから、カルデラ地形としては、規模的には阿蘇より大きいとされているようなのですけれども、イエローストーンとか屈斜路といった同様の大規模なカルデラ地域が比較対照として挙げてございます。霧島とか伊豆七島の比較対照としては、火山ということでカムチャッカ、ハワイ火山等が掲げてございます。

一番下にあります屋久島につきましても、先ほどの白神と同様、登録地の評価を載せてございますので、これも推薦時には、ヤクザルですとかヤクシカなどの固有亜種の生息地で、クライテリアも評価してほしいということで申請をしたわけですが、登録地には、その点は認められてございません。

それでは、1枚めくっていただいで、2 - 5ページにいきたいと思えます。

2 - 5ページは、ミクロネシアと書いてあるのが小笠原諸島でございます。琉球諸島と書いてあるところが17番の、前回まで南西諸島という名称で整理していたかと思えますけれども、琉球諸島に分類される地域でございます。前回まで南西諸島という名前を使っていたのですが、いろいろ調べていきましたら、多分この地域でのこのところのご議論の対象は、生物地理区分の代表的な区分線である渡瀬線より南の地域を対象という理解であったわけですが、南西諸島という名称を使いますと、渡瀬線より北の屋久島、種子島の、いわゆる大隅諸島が含まれてしまうものですから、とりあえずここではトカラ・奄美・琉球列島という呼称に変えてございますけれども、この点はまた後ほどご議論いただけたらと思っております。

小笠原につきましては、いわゆる大洋島としての独特の生態系の評価がされるかと思えます。トカラ・奄美・琉球列島は大陸から分かれた列島弧としての独特な生態系が評価されるかと思えます。比較対照としては、それぞれ離島ということで、両地域相互の比較が必要かと思えますけれども、それプラス、海外ではガラパゴス諸島ですとか、サンゴ礁の遺産地域であるフィリピンにございますトゥバタハ岩礁、こういったところが対照地域として挙げられるかと思えます。

最後に、一番下の海岸地形につきましては、三陸海岸と山陰海岸の2つが挙げてございます。

これはそれぞれ変化に富んだ海岸地形並びに、その景観が評価できる可能性があるかと考えております。比較対象としましては、ここに書いてありますようなカナダですとかイギリスの海岸が評価された世界自然遺産を挙げてございます。

以上で資料2についてのご説明を終わります。

資料3につきまして簡単に説明させていただきますと、こちらの方、真ん中の太い線で区切つてある部分より左側は既存の保護区の設定状況が示してございます。今回、この重なり具合は、機械的作業で、前回まとめた地域をとりあえず対象に重複の具合を調べたものでございます。参考図をお手元に置いてありますので、実際、ここでの議論の中での対象がどういった保護区があるかということは、図面を見ながら、またご確認いただけたらと思います。ただし、お手元の供覧図面ですけれども、国立・国定公園ですとか自然環境保全地域は区域全体を示してございまして、規制の弱い普通地区も含めてありますので、その点はちょっとご留意いただければと思います。

一点、この関連データ一覧の中で修正をお願いしたいのですが、7番の飯豊・朝日連峰と重複のある森林生態系保護地域、左から3番目の地域名が飯豊山周辺という名前になってございますけれども、朝日連峰についても森林生態系保護地域と、最近、4月1日からだったかと思っておりますけれども、新規に指定されてございます。この点、抜け落ちておりましたけれども、ご紹介するとともに追記修正をお願いしたいと思います。

また、資料3の右側半分は、植物レッドデータブックの種数ですとか、哺乳類以下、ここに書いてある種類群の種数、天然記念物の数を載せてございます。これはあくまでも基礎調査による全国調査のデータを用いていますので、具体的な生息とか生育種名については、それぞれの個票で分かるものはできる限り含めてございますので、細かい部分については、各個票の資料4をご参照いただけたらと思います。

資料4につきましては、先生方にも事前に素案をお送りしてごらんになっていただいておりますので、時間の都合上、ここでは細かい説明は省略させていただきます。ただ、幾分限られた資料と時間の中で作業をしたものですから、まだまだ不十分なポイントはあるかと思っております。ただ、できる限り主な評価すべきポイントは拾い上げているつもりでございますので、また、不足ですとか、先生方の新たな視点でのご意見をこの検討の中でご指摘いただけたら幸いに存じます。

以上で事務局からの説明は終わりにさせていただきたいと思っております。

座長 ありがとうございます。短時間の間に非常に丁寧に資料を収集していただいて、それを整理して、今、比較してご説明をいただいたのですが、全体を漠然と眺めていてもあれなので、地域ごとに比較をしていくのが進め方と思うのですけれども、そういうことでよろしいでしょうか。まず、地域ごとに区切っても、今日はそこで順序づけをするのではなくて、今のクライテリアに従って、あるいは海外の世界遺産と比較をしながら議論を進めていただくということですが、最初は資料2 - 2ページ、Udvardyの地域区分でいいかと混交林、これは北海道が相当するわけですが、北海道の5地区について議論をお願いしたいと思います。

これは比較のところにも出てきますように、ロシアのシホテ - アリンが世界遺産に既に登録されていて、それとの比較が必要なのですが、上野委員がそこへは行かれたことがあるそうですね。北海道も5カ所ともよくご存じですし、そういう比較も含めてちょっとご紹介いただけますでしょうか。

上野委員 シホテ - アリンは結構広い地域ですし、北部と中央部と南部とまるっきり違いますけれども、生物面から見ると一番生物相の豊かなのが南部で、中央部がそれより少し落ちて、北の方は非常に貧弱になります。ここではシホテ - アリンの中央部と書いてありますが、ほとんど手つかずの地域ですし、範囲が広く南北に長いということで、随分さまざまな要素が含まれている。日本の場合、今取り上げてあるような5つに分割いたしますと、これはシホテ - アリンに比べると

随分細々した単位のものになると思います。どれだけの変化を1つの地域の中に取り込むことができるのかというのは、私はよく分かりませんが、利尻・礼文とサロベツとは随分違うと思いますし、逆に知床、阿寒・屈斜路は割に近いだろうという気がします。そういうふうに見て考えますと、シホテ・アリンはもちろん山ですから、サロベツ原野みたいな感じのところはないわけですね。海岸まで山が迫っていますから、その地域の中にはないと思います。もちろん利尻・礼文みたいな隔絶された場所でもないわけで、非常に狭い地域の中でいろんな分化が見られる、あるいは遺存種が見られるということもない。しかし、一方で日高山脈は少し違いますが、大雪山が一番近いと思うのですが、上にいろんな高山植物があって、かなり平たいところがあるというふうな環境はありますから、そういう点では、大雪山はもちろん広い場所は広いですが、割合に似たところがあるところだろうかと思います。シホテ・アリンのどれだけの地域が指定されているのか、私はよく知りませんが、東側へおるとテルネーのトラの保護地区がありますし、海岸まである。ただ、海岸の様子が知床の海岸とは随分違いますから、それはまた別の問題になるだろうかと思います。

ほかに特にご説明することはないと思いますが、何かご質問がありましたら伺います。

座長 非常に広大な地域でということですが、地域の比較も含めて、この自然遺産について、事務局から何か補足していただくことがございますか。

奥田(環境省) 特に細かい点ではありませんが、確かに北海道の地域は比較対照になっておりまして、シホテ・アリンも2001年だったかと思いますが、新しい登録でございます。シホテ・アリンが登録される際には、北海道の大雪山ですとか、そういったものは比較の対照に挙げられてございまして、あまり細かいところは評価していただかなかったのが、規模的な面で北海道の方はどうしても小さいといったような評価が向こうの評価審査のときには行われていたといった点を1つだけご紹介しておきたいと思っております。

座長 ということで、北海道の5地区について、いろいろコメントをいただきたいと思うのですが、まず、応援演説的なところから、学術的にこういうふうにすぐれているというような話を、この前も私は伺ったわけですが、どなたからでも結構です。

小泉委員 今、日本の場合、シホテ・アリンに比べて面積が非常に小さくて細々しているという話があったのですが、全体の今回の検討地域を見てみますと、国立公園の指定に引きずられているところが結構あります。例えば利尻・礼文・サロベツを一緒に考えるというのもそんなことだと思いますが、この間、北海道の自然保護協会から来たお手紙を見ていますと、大雪山から日高までまとめて考える、知床と阿寒・屈斜路・摩周はつなげて考えた方がいいのではないかというふうな提案がありましたけれども、シホテ・アリンとか、そういうのと比べてみると、この辺はまとめた方がいいような気がします。

私は大雪山と日高に加えて夕張山地も一緒に入れてしまった方がいいなと思っています。今回はどちらかというと生物的なのが非常に強く出てきたのですが、私は地質を考慮しなくてはいけない立場ですので申し上げますけれども、例えば夕張あたりですとメラングエというプレートテクトニクスにかかわるものですが、それで天然記念物になったりしているわけです。そこに蛇紋岩が出てきたりしまして、植物も豊かになるのですが、面積的に小さいものですが、それだけだとちょっと出ないという感じで私は見送りましたが、世界的な視点から見ると、そのメラングエというのは相当価値があるものだという感じがします。ですから、場合によっては大雪山から夕張山地、日高、全部含めて この一連のつながりを何と呼ぶかわかりませんが、その地質は、日高みたいな基盤の山があって、夕張の山があって、それから大雪がその上に乗ってきた火山のような、そういう格好になるわけですが、これ全部を含めてもシホテ・アリンと比べればやっぱりまだまだ小さいわけですが、含めて考えた方が、さっき、規模の面では評価委員会の方で問題になる、小さ過ぎるという話があったことですから、これをまとめてやっていくといいのではないかと。そうすると、日本としては非常に広大な火

山地域から、急峻な日高の氷河地形、それからメランジェみみたいな非常に地質的な特徴を持った夕張山地、そこにあと石灰岩の山があったりとか、もろもろいろいろなものが出てきますから、全部まとめていくと非常に原生的な自然が残っていて、かつそれぞれのタイプがかなり違っている。いろんなタイプの自然がこの3地域の中に含まれてくると思いますから、私は、場合によってはこれをまとめて、夕張を含めて考えた方がいいのではないかという感じがします。

上野委員 夕張を含めて考えるというのは、私は大賛成です。特に動物面から見ると、夕張と日高はほとんど一連のもので差がありません。途中に集落が多少入っていますが、そう大きなものは入っていません。ただ、大雪と夕張、日高は生物面では随分違います。さっきちょっと私が伺ったのは、利尻・礼文・サロベツが一緒になっている。これはかなり異質なのですが、これが一緒にしてあるなら、ほかのところももう少し考えてもいいのではないかとしたのはそれなんです。特に私が思っていたのは、そっち側じゃなくて、知床から阿寒・屈斜路の、ここは1つに考えてもいいのではないかと。逆に動物面から言うと、ほとんど差がないということなんです。あまり顕著なものもありませんし、あまり差もないということで、こちらは全く1つ続きに考えてもいいのではないかと考えています。

大澤委員 今のご意見と一部は一致するのですが、北海道からのご意見をいただく前から、知床と阿寒をどうして分けるのか、地図が手元になかったこともあって疑問には思いながら感じてはいました。ですから、ご意見は、その時点では知床、阿寒に関しては、やはり当然かなという感じがします。もう1つ、例えば夕張、日高というのはなんとなく似たポイントを抽出できるのかもしれないのですが、それと大雪と合わせてという、全部あるようなことで、何を世界遺産のあれにするのか、日本がプレートテクトニクスと火山の標本地であるというような位置づけになって、あまり売りがないのかなという感じがします。それから、大雪と日高をくっつけるというのも、そこで何か合理的な説明をきちんとできて、どこがポイントだということを明確に提示できればいいと思うのですが、生物的な面と地形・地質を考えると、一緒にしてしまうということ自体の意味があまりはっきりしない。それから、利尻・礼文・サロベツもなんとなく周りにある似たようなものを集めたような印象で、それをユニバーサルバリューという形で提示する上で、はっきりとした説得力が出るのかどうかという意味でちょっと疑問を感じます。

座長 最初にシホテ・アリンと比較をしていただいたので、規模が小さいからくっつけるという議論が先行したみたいなのですが、大きさから言いますと50km<sup>2</sup>以上ぐらいあれば、それなりに申請しておかしくないということなので、今くっつけなくても、単独でこういうよさがあるということももっとご意見が出てもいいと思うのですが。いずれにしても、高山帯になるわけですが、日本の高山帯が外国と比較して世界遺産ですから、外国と比較しないと日本一では仕方ないわけですから、外国と比較してどうなのかというようなことだと、氷河地形も北海道では話題になると思いますけれども、そういうのも対外比較ではどうなのかというようなことも含めて、もう少し議論を深めていただきたいと思います。

吉田委員 今、座長からお話があったことそのままではないのですが、先ほどから出ていた幾つかの場所をくっつけるという案についての考え方の整理について、私なりの考えを申し上げます。基本的には1つ1つの場所が評価されるということが第一で、その上で、これとこれは非常に類似しているのでくっつけるというのが原則です。今日の議論には、1つ1つでも価値があるのだけれども、合わせたら面積はもっと広がるのではないかとという考え方と、どうしても1つ1つの場所が小さいから合わせようという考え方の場所と両方あると思います。世界遺産委員会では幾つかの場所を合わせると地史的な成り立ちなど連続性があるって非常に意味があるということが評価されます。例えば琉球列島の場合は、かつて大陸につながっていたものが1つ1つの島に分断されて、それで固有種が生まれてきたというような意味がありますから、島はばらばらでも一続きのものとする理由は非常にはっきりしているわけですね。それらが一連のものであるということが合理的な説明ができず、ただ面積をふやすために広げたとおぼえてしまうと、あまりよくないと

という気がします。北海道の場合は、1つ1つの候補が面積的には十分なので、1つ1つが、このクライテリアに合致しているということをきちっと押さえた上で、ここここは地史的に連続ではないですかという話に持っていったらいいのではないかなと思います。

具体的な話に移りますと、大雪と日高に関しては、哺乳類については連続性はあるのですが、昆虫相などについては違うと思います。それは大雪の方が火山に由来して、日高の方はプレートテクトニクスで隆起してできた、そういったところに理由があるとも思いますので、1つに考えて説明がうまくできるのかどうか、議論が必要かなと思います。

知床、阿寒・屈斜路・摩周に関しては、火山については連続性があるだろうという感じがいたします。

知床に関して、上野先生からシホテ - アリンのご説明をいただき、海岸部は知床とはちょっと違うというお話がありました。千島列島はみんなそうですが、知床の場合は流水が入ってこない日本海側の海岸線とは違い、流水によってもたらされるプランクトンの発生があり、そこに魚類などの生産性の高いところがあって、それをオオワシとかオジロワシとかヒグマが食べる。そういった生態系が成り立っている。このあたりはシホテ - アリンにはないユニークなところだと言えるのではないかなと思います。

シホテ - アリンも幾つかのクライテリアで出したようですが、最終的に通っているのは番だけですね。ですから、番、番あたりで出していく遺産があってもいいのではないかなと思います。

座長 北海道だけで議論をしているわけにはいきませんので、次へ進ませていただいて、北海道は大体よろしいでしょうか。

では、次が2 - 3で夏緑樹林として整理されている早池峰から北アルプスまでで、ここは白神山地とも比較しながらですが、この地域について、どなたからでも結構です。ご発言をお願いしたいと思います。富士山、南アルプスはUdvardyの区分ではここに入るんですが、この前の議論もありましたので、後のところに区分されていますけど、もちろんここで一緒に議論していただいても結構です。それから、ここには既に登録されている自然遺産である白神山地がありますので、このことも念頭に置いて議論をしていただきたいと思います。

大澤委員 ユニバーサルバリューという視点からすると、どれもなかなか難しい面があると思うのですが、白神山地はブナの原生林が広くあるということで、飯豊・朝日の方にもあることはあるわけですが、比較的広域的にそういうものが発達しているということであると思います。この中で、名前としては出てきていないのですが、8番の尾瀬を含む奥利根・奥只見というあたりが、1つ高層湿原の大規模な発達ということで価値はあると思うのですが、あまりに源流部がみんなダムで固められてしまっているというようなこともあって、ちょっとその辺も気になるというか、私の最初の印象ですが、そんな感じです。

上野委員 この4つを比べてみて、北アルプスを除いて考えたいのですが、早池峰と飯豊・朝日と奥利根・奥只見で比べてみると、とにかくぱっと見た感じで飯豊・朝日が一番顕著にほかと違うと思います。早池峰だけ取り上げると、これは非常に小さな地域になってしまう。そうかといって陸中海岸とくっつけるわけにもいかないということで、これは世界自然遺産にここだけで取り上げるだけの意味があるかどうか、私は非常に不安に思います。奥利根・奥只見は確かにおもしろいところですし、大きな尾瀬の湿原もありますが、細かく見ていかなければ、あそこはなんとなくぼんやりした地域、どこが境なのかかわからないような感じを受けるので、やはり雪が多い多雪の環境ということで特徴づけられる飯豊・朝日 月山を含めてですが、ここが東北地方では最も特徴的な、日本でもほかに例のないような地域ではないかと私は思っています。

座長 植物でも多雪地帯はそれなりのおもしろい種分化の形がある。日本海側要素というのは特徴的だったりするのでありますが、日本の多雪地帯の国際比較をすればどうということになるのでしょうか。

上野委員 多雪によって特徴づけられる地域は世界的にも非常に珍しいのではないですか。寒いところはいっぱいありますけれども、雪が非常に多いというのは周りを見回しても、かなり遠いところを見てもないように思います。ニュージーランドなどでは氷河になってしましますよね。

小泉委員 これは前回申し上げたと思うのですがけれども、残雪を秋まで持ち越したり、あるいは越冬するような残雪がこのあたりにたくさんある。飯豊などは特にたくさんあるのですがけれども、これは本当に世界的に見れば案外珍しくて、私たちは日本にいるものですから当たり前になっているのですが、残雪が残るといのは日本列島から始まってカムチャツカ、アリューシャンとか、あとずっと南下してマウントレーニア、あのあたりにほとんど限られてしまします。ですから、世界的に見ると、これだけのものはほとんどないわけですし、雪がもとになったような偽高山帯という、高山帯の針葉樹林が欠けてしまって、それが高山帯みたいな草原になっているという景色ですが、こういうのは非常に珍しいと思います。日本の山は全体が多雪、強風の山ということになるのですが、その中でも飯豊・朝日は特にそういった意味の代表的な山というふうになすことができますから、これは世界的に見ても決して遜色を持たない、十分やっつけられる場所ではないかと私は考えます。この4つを挙げると、飯豊・朝日がそういう意味では一番特徴的な山かなという感じがいたします。

座長 僕はさっきちょっと間違った言い方をして、富士山、南アルプスは事務局で準備していただいた資料ではUdvardy に従って次のページになっているのですが、この前にもありましたように、これはむしろ今のところで多少比較して議論した方がいいというふうな地域だと思います。後でまたもう1回議論していただいてもいいのですが、それをここで比較の対象として何か.....。

吉田委員 富士山の話ではないのですが、先ほどの小泉先生からの話の続きで、飯豊・朝日は多雪環境ということで世界的にも非常にユニークだということは言えるのではないかと思います。世界的な評価のときは、日本国内のレッドデータブックよりは、世界的な見地から見て非常に重要な種というので、世界の北限に近いニホンザルの分布や日本の固有種のニホンカモシカ、ツキノワグマとか、そういったものが生息していることは意外と高く評価されるのではないかと思います。奥利根・奥只見・奥日光の方も広い高層湿原があるという面では捨てがたいところがあるのですが、原始性という視点からは飯豊・朝日の方が評価できるのではないかなという感じがいたします。

ただ、一番の問題は、白神山地が既にブナ林の代表として入っているのではないかとされる可能性があるということが言えます。シホテ・アリンの面積からいったら白神山地から、飯豊・朝日、奥利根・奥只見までは1つの自然遺産に入ってしまうのかもしれませんが、しかし、そういう可能性は残しながらも、この部分だけでも世界的にユニークだと言えるところではないかなという感じがします。

座長 三浦委員は、この地域は何かコメントは.....。

三浦委員 私は東北にいたものですから、早池峰が面積的に少ないというのは、これはもう認めざるを得ないですね。ただ、これは違う基準であろうと思うのですが、北上高地全体で言えば、人間がかなり長期にわたって使ってきた中にぼっかりと特殊なものが浮いている。しかも、なおかつ生物多様性が非常に高い、特に植物がほかの地域とは違うといったようなことで残してはいただきたいなと思うのですが、面積的にはちょっと無理かなという感じがします。

ほかの委員の方のご指摘のように、やはり多雪環境は世界的に見ても非常に貴重なもので、それをキーとして多様な環境がそれぞれ作り出されているわけですから、その総合としては、私はやはり飯豊・朝日は非常に大きい価値を持つだろう。全体として言えば、尾瀬が残らないのは少し残念かなとは思いますが、飯豊・朝日というのが妥当ではないかと思います。

座長 それでは、次のところに富士山、南アルプスがありますので、それも含めて、またもとへ戻っていただいてもいいのですが、2 - 4ページの常緑樹林の10番から15番まで、これは屋久島が既に登録されていますので、これとの比較を含めてですけれども、またいろんなコメントをお願い

いしたいと思います。どなたからでもどうぞ。

土屋委員 単純な質問があります。どのページでもよかったですのですが、ちょうどここに質問しやすいところがありますので、質問させていただきます。南アルプスのところを見ますと、番のクライテリアに遺存種のことが出てきます。番に固有種のことが出てきますが、クライテリアの説明を見ますと、番は、重要な動植物群の進化発展における進行中のさまざまなプロセスである。また、番は、学術的・保全的観点から見て絶滅のおそれのある種を含む重要な部分であるということになっています。固有種を、あるところに独特の進化を遂げた生物が残っているという意味で捉えれば、進化のまさにそのプロセスを示すもので、番のクライテリアと考えられなくもないと思うのですが、世界遺産の会議では、固有種は番の方で考えるということになっているのでしょうか。

座長 整理をしていただいた事務局の方から……。

奥田(環境省) 多分、吉田先生あたりが一番お詳しいんじゃないかと思いますが、間違いがあれば修正、補足していただきたいのですけれども、確かにそのあたりは非常に微妙なところかと思えます。ここでは遺存種の場合は、明らかに氷河期から地史的な歴史を物語るものということで番に挙げて、番は固有種が一般に分布が限られたり、そこにしかないということで絶滅の危機に瀕している、そういう観点で番のところに挙げたということでございます。固有種の評価をサイエンティフィックに、今、土屋先生のご指摘のような地史的な部分なり、そこが固有種となったことで、まさに地球の歴史を物語るということが説明できれば、当然番の中でも挙げるということは可能と考えております。ちょっとその辺、私どもの分析が不足しているのではないかと思います。以上でご説明とさせていただきますと思います。

座長 最後のところの保全のためのインディケーター(指標種)として固有種というのが挙げられているというのがあると思いますし、絶滅危惧種に関しては資料3に数字が挙げられていますので、わざわざここへ挙げられていないということだと思っております。

土屋委員 少し続けさせていただきます。以前の幾つかの遺産に対する立候補のときに、すべてのクライテリアについて重要性を述べたにもかかわらず、ここが取り上げられて、そのほかは取り上げられなかったというところに、こういうところがひっかかっているとすれば損ですから、このクライテリアに関しては、こういうことを議論すべきだということももし整理されるのであれば、しっかり整理して訴えるところを訴えるのがいいのではないかと感じたものですから、あえて申し上げました。

大澤委員 今の土屋委員の質問を受けてクライテリアをきちっと読みますと、ここで書いてある固有種というのは新規固有というか、新しくその場所で進化した種類というような意味の種類だとすれば、むしろ に書いた方がよくて、 に書いてある遺存種というのは、周辺でどんどん絶滅してしまって、そこにしか遺存していないという意味からすると、の方が適切ということになるかと思えます。

吉田委員 クライテリアについては、ユネスコの条約やガイドラインの文章ですけれども、すごく格調高くて難しいので、IUCNの方では簡単に は地形・地質的基準、 は生態系の基準、 が雄大な景観、 が生物多様性の基準と言っています。 の基準は93年の世界遺産委員会で改正されて今の文章になる前は絶滅危惧種だけだったんですね。それで、絶滅危惧種の部分だけ入れられていると思うのですが、今は生物多様性の現地保存にとって重要ということですから、固有種も に含めて考えていいのではないかと思います。

クライテリアのどれに合致しているかという話は、今まであまり十分議論できていないのですけれども、非常に大事なことです。そのところはきちっと議論しておかないと通りません。クライテリアについては厳しくチェックしていただいて、この候補地に関しては4つともが書いてあるけれども、このうち の基準を強調すべきだとか、 の基準を強調すべきだとか、ここだけは落とされないといい基準をしっかりとピックアップしておく必要があると思います。

座長 次回、最終的に絞るときには、完全性ということも含めてクライテリアとの対応というのをもっときっちり詰めないといけないと思うのですけれども、何が特徴かというのは今まで議論の中でも出てきているわけです。今日はむしろ、そういう強調すべき点というようなところに焦点を当てて、もう少しフリーディスカッションを続けていただいた方がいいかなと思って、そういうふうに進めていますが、当然、話の中でクライテリアのここは強調すべきであるというようなところは、ぜひご発言いただきたいと思います。

上野委員 質問なのですけれども、今の 番と 番との関係をもう一遍詳しくおっしゃってくださいますか。

吉田委員 番が生態系の基準、 番が生物多様性の基準です。どちらかという 番の方がわかりやすく、ここで出ている候補地でいきますと、大洋島でほかとつながったことのない小笠原諸島とか、それぞれの島で独自の進化を遂げた琉球諸島とか、そういったものは明らかにこの 番に合致するというふうには言えるのではないかと思います。 の方はそれぞれのバイオームの代表的な生態系です。熱帯雨林からツンドラまでの陸上及び海中の生態系の代表選手です。この議論の中で、Udvardy のカテゴリーに沿って議論しなくてはいけないのは、この に合致する部分です。 とか に合致するものは、このUdvardy の分類に関係なく、 だけで大丈夫だからとか、 だけで大丈夫だからという形で選んでもいいのではないかと思います。

座長 この2 - 4に挙げられている地域について、具体的にもう少しご発言をお願いしたいと思います。

大澤委員 これも前回言いかけて、今の2のユニバーサルバリューという意味からすると、そのタイトルがそうですけれども、日本の常緑広葉樹林というのがJapanese evergreen forest という1つのユニットになっているんですね。先ほどの北の方のmixed forestはManchurian and Japanese mixed forestということになっているのですけれども、日本の常緑広葉樹林は、そういう意味では国際的な価値が非常に高い生態系だと思います。結局、(世界遺産候補地として)適当なところがないということになってしまっているのですが、特に常緑広葉樹林だと、逆に言うと面積的に大きくてきちっと保全されているようなところがなくて、まさに消えてしまうおそれのある生態系というのにふさわしいわけです。そういう意味からすると、日本の常緑広葉樹林生態系は、屋久島が入っているとは言いますが、屋久島は、その基準としても主としてスギの原生林というところが対象になっていて、麓の常緑樹林が多少考慮されて、海岸まで範囲が広がったりしたという経緯はあることはあるのですけれども、常緑広葉樹林としては綾などの林を見ると、屋久島の林と特性が全然違います。現状できちっとした保護や保全の体系の中に組み込まれていないという問題はあるのですが、少なくとも価値だけは十分強調しておきたいと思うのですけれども、それが具体的にどこのどれがいいということまでは、そういう適当な場所がないということは念頭に置きながらも、この世界遺産の本来の趣旨からすると、日本の常緑広葉樹林を何かの形できちっと組み込めるということが日本としての責務であるというふうなことを意見として申し上げておきます。

座長 中国の武夷山との比較ではいかがですか。

大澤委員 Udvardy の区分では中国の南西部の生態系と日本の生態系を分けていいですね。多分、中国の南の方での関心は、主に亜熱帯ないし熱帯的な生態系の方に主眼があるのだらうと思うのですが、中国の常緑広葉樹林と比べると、日本の常緑広葉樹林はもう圧倒的に貧弱であることは確かなのですけれども、ちょっとそれとは違う北限の常緑広葉樹林がきちっとした形で残っているというのは日本しかない。中国は、逆に言うと、そういう部分が一番強度に破壊されて、既に常緑樹の北限が、気候的な北限よりもずっと退行しているというようなことがあって、北限の常緑広葉樹林が残っているというのは日本にしかないと言ってもいいぐらいだと思います。

座長 ほかのところのコメントはどうでしょうか。

土屋委員 伊豆七島については、ほかの地区とは違う状況がありますので、ここで比べながら議論す

るといのは適当かどうか私にはよくわかりません。むしろ国内では小笠原、あるいは沖縄の島々と一緒に考えるべきかもしれませんし、世界的に見ると、こういう島々がつらなった区域と比較すべきなのかもしれません。クライテリア のところに書いてある豊富な鳥類というのはこの大きな特徴だと認識しています。島の面積の割に鳥の種数が多いということは、計算してみないと分からないですが、伊豆七島の場合、ひょっとしたら世界的に見てもかなり重要な場所になっている可能性もありますので、そんな形の検討も必要かもしれないと思っておりました。

座長 富士山というのが必ず名前が出てくる場所だと思うのですが、学術的に見て、富士山を自然遺産に登録申請するとすれば、富士山というのはどの範囲を富士山というふうに認識したらよろしいですか。これは小泉委員か、上野委員か……。

上野委員 私が一番富士山に二の足を踏んだ理由はそこにあるのですけれども、5合目から上だけとれば問題は非常に簡単でしょうが、これだと富士山の値打ちがほとんどないように私は思います。下から成り立っている富士山。1合目から3合目ぐらいの間が特に重要ではないかというのが私の感じです。その間がまた一番いろいろ問題の多い地域でもあるわけですね。

座長 小泉委員もお願いできますか。

小泉委員 今おっしゃったとおりですね。本当に5合目以上だと、生物的にもそんなに目立つものはありませんし、むしろ下の方ですよ。溶岩上に発達した群落とか、溶岩トンネルとか、溶岩洞窟とかいろいろな地形、その他もろもろですけれども、みんな下の方になっています。青木ヶ原みたいところは人手があまり入ってないですけれども、ほかにも人手が入り過ぎているというのがすごく問題だと思います。独立峰として見た場合の景観はそこに挙げてあるので、これはもう本当にそのとおりなので、そこから評価していけば、下から全部入れないとまずいと思うのですが、あまりにも人手が入り過ぎたのと、よく問題になるように、ごみがとても多いところですね。そういうマイナス点がすごくあって、これはいつも候補に挙がっては、困ったなという話になってしまうので、その辺がもうちょっときちんとクリアできれば、十分に推薦に耐えられると思います。

三浦委員 富士山については、クライテリアの が全くないのですが、これに該当しているものがあるような気がしますし、例えば鳥では陸生で日本に繁殖する鳥類の大半が繁殖しているといったようなこととか、種数それ自体も多いし、洞穴性のコウモリもかなりいるのではないかと。それから、同様に洞穴性の昆虫等も種数としては非常に多いではないかということで、生物数を裸でそれぞれたくさんの比較をしたときに、 の持っている価値はかなりあるのではないかと思います。ただ、実際に物を見たときに、対象になり得るかかどうかというのは非常に残念ですが、挙げ得ることは事実だろうと思っております。

大澤委員 1つは生物的には垂直分布ということが重要なポイントだと思うのですが、上野委員がおっしゃるように天然記念物で残っている富士山原生林は幅200 mぐらいでしかずっとつながっていないような現状で、先ほどの常緑広葉樹林と同じように、逆に今となってはもう価値を失ってしまったと言うと問題ですけど、その本来の姿が残っていないという点はあると思います。

それから、種類が豊富だというのは、ちょっと特殊な植物がたくさんある、火山地帯特有の種類が出てくるといことは挙げられるかと思うのですが、それがユニバーサルバリューを持つほどのものかという点では、植物に関してはあまり大きくないような感じがします。

座長 この2 - 4では南アルプス、阿蘇、霧島に関しては、特にコメントがまだありませんけれども、どなたか……。

吉田委員 このページに挙げられたものは、南アルプス以外はみんなそうなのですが、昔から人が住んできた地域ですから、面積を広くとらないと、このクライテリアの幾つかに合うような地域がとれない。広くとると、今度は完全性の基準を満たさなくなる可能性があるという矛盾を含んでいると思います。これを議論していくと、結局どういう範囲だったら可能なかというところまで詰めないといけないと思います。次回までにこの委員会でやるべきところは、そういう

ふうによく似た場合、科学的、学術的にクライテリアに合致する価値がどこにあるかということをもっと押さえないといけないと思います。富士山だったら1合目から3合目も全部含んだ形で考えてみる。そうしたら、完全性の基準を満たさなくおそれがある。どうして基準に合わなくなるのか、そういうことを提言のような形で出せたらいいのではないかなと思います。

IUCNでは非常に単純化して、クライテリアに合うかどうかというのが第1のテスト、完全性の基準を満たすのが第2のテスト、そして国内法で保護しているかどうか第3のテストとやっているわけです。1から順番にテストを合格していかなければいけないので、結局のところ、富士山だったら富士山の価値を代表するものは全部入れないといけない。そうすると、2に合格しなくなるという矛盾をどうしたらいいのかということ、課題としてきちんと書き残すということが必要だという気がします。

個別のところでは、九州の山地の照葉樹林の部分は、まさにそういう例です。世界のバイオームのことを書いてある本を見ても、照葉樹林帯のことはほとんど書いていません。書いてないということは、逆に言えば世界的にもここにしかないから、世界の教科書にはあまり書かれないのだと思います。そういう面では非常に重要なので、何とかして日本からそれを入れたいという気持ちはあるのですが、逆にブナ帯である祖母山・傾山とか、そういうところと合わせると、照葉樹林という価値の違うものと合わせてしまうということの問題点が生じてきます。そのあたりをきちっと整理できたらなという感じがいたします。

上野委員 先ほど伺ったお話ですと、南アルプスの に書いてあるのは にいくべき性質のもので、そういうふうにして考えると、北アルプスと南アルプスは、例が違うだけで、言っていることは全く同じです。また、事実、ここには違いはないと思います。おそらく、南アルプス、中央アルプス、北アルプス、白山ぐらまで含めて、生物的には全く同じ。種はもちろん違います。けれども、クライテリアのどこに合ってくるかというのは全く同じ、それから固有性の高さも同じ、ほかに何かはっきりした違いがあるのだったら教えてほしいぐらいだと私は思っています。

それから、阿蘇ですけれども、私もあそこは日本の中では非常に特殊な場所だからということも前に申し上げたのですが、生物面から見ると、ここは固有種も何もありません。固有種はありますけれども、ごく目立たないものが幾つかあるだけで、その点では、これはほかのところと随分性質が違いますから、地形の方で取り上げられなければ、ちょっとここを応援するわけにはいかないように私は思います。

それから、霧島ですけれども、ここも一連のものの中の1つとして見れば別ですけれども、そうでなければ、生物面から特に取り上げたいようなものはない。先ほどから話の出ている照葉樹林は小さい動物にとっては小さな林でも、十分にそれを保全する意味がありますが、なんとなく規模は小さくて、ばらばらのものをつなぎ合わせて無理に設定するのがどうかなと私は思っています。

座長 阿蘇を地形の上から見て、小泉委員、何かコメントございますか。

小泉委員 確かに阿蘇だけだとちょっと厳しくて、世界でも有数の大カルデラですから、ある意味ではそれだけということになってしまいます。ですから、生物的に見たら、本当にもう改変されていますし、人がいっぱい住んでいるわけですから、ここは確かにこれだけだとちょっと厳しいなという……。ただ、地形面から見れば、これはやっぱり取り上げざるを得ないし、富士山も当然ですけれども、そういう意味の価値はあるということです。ただ、生物的には確かにあまり価値がないと言えないので、さっきの吉田さんがおっしゃった完全性とか、そういったようなところからいうと落ちるのかもしれませんが。

吉田委員 阿蘇についての結論はまだですが、この会議で結論を出していくときに、人手が入って維持されてきた自然は、また別の意味で評価できないのか。ユネスコの生物圏保存地域の候補として選ぶという手もあるのではないかというお話もありました。また、同じ世界遺産の中でも、文

化遺産のカテゴリーに入る文化的景観の候補とすることも考えられます。将来的には、現在の文化6つ、自然4つというカテゴリーから文化、自然を合わせて10個の1つのクライテリアになり、シームレスになるようです。そういった意味でも、文化的景観という形で、もう1回再トライしてみたらどうというような含みも残せるのではないかなと思いました。

座長 それでは、次のページへ進ませていただいてもよろしいでしょうか。

個別に見ていったらいいと思いますけれども、小笠原について、どなたからでもコメントがいただけたらと思いますが。

上野委員 小笠原は固有種がものすごく多いというのが最大のメリットだと思うのですが、逆にそのほとんどすべてが絶滅に瀕しているというのが大変なマイナス点だと思います。だから、この前、環境、農水両方の方々とお話ししたときにも言いましたが、まず移入種を絶滅することから始めないと、ここは出しても現状では難しいのではないかとというのが私の感じです。

ここには全然出てこないのですけども、鳥は固有種はたった1種しか残っていないですね。あとは全部滅びてしまった。獣はもともといませんから、コウモリぐらいですから大したことはないのですが、それ以外のマキガイとか昆虫がほとんど全部固有です。にもかかわらず、それがほとんど全部滅びかけている。非常に悪い事情なので、今、固有性の高さを唯一の材料にして申請するのは大変に難しいのではないかと。ただ、これが十分に保全された状態であれば、ガラパゴスとか、ああいう世界的に有名な場所に十分匹敵するぐらいの内容を持っているところだと思います。それは動物も植物も同じだと思います。

吉田委員 小笠原は動物相、植物相からいって、大洋島でほかとつながっていないわけですから、非常に固有種が多いということで、これは推薦の価値が十分あるのではないかと思います。先ほど上野先生からおっしゃった点については、まさにそのとおりで、ガラパゴス諸島も国立公園にして、そのプログラムの中でヤギの駆除だとかをやっていますけれども、そういった意味で、世界遺産にするならそれなりのプログラム、管理計画をきちっとつくって、残念ながら環境省のレンジャーもいないわけですけども、そういった体制も整えるというような管理計画を見せていけば、そういう問題にきちっと対処しているという評価はされるのではないかと思います。

座長 土屋委員、琉球と比べて何かご発言ございますか。

委員 大変極端な話をしますが、小笠原と琉球をまとめるというようなアイデアは出てこないかと前々から思っていました。というのは、大洋島と陸橋でつながった島が近くにあるというのは日本の大きな特徴でもあろうかと思しますので、全く無理ならだめですけども、そういうことによってマイナス面を補うということは可能ではないかと思っていました。

大澤委員 固有種が多いというのは大洋島のあれですから、ハワイにしても、小笠原にしても同じように高いわけで、それ以外に小笠原が独自だという点はなかなか挙げにくい面があります。それには、例えばガラパゴスがこれだけ有名になっているというのはダーウィンの研究が大きくて、そういう意味で小笠原の島嶼を生態系として着目して保全していくということと同時に、研究がもう少し進む。そのためには保全がきちっとしていないと、今もお話しがあったように、固有種がどんどん絶滅していったというような現状を看過しては、なかなか候補にも挙げにくいというようなことに結局つながってくるような感じがしますね。ちょっと意見だけ。

三浦委員 当然のことながら、固有種が非常に多いということで、私もぜひ小笠原はリコメンドしたいと思っています。上野先生のご指摘のように、むしろ条件を整えてからということなのですが、それですと、往々にして手おくれになるのではないかと。吉田委員がご指摘のように、むしろ指定ということによってプログラムをつくり、それと同時に、研究費等もそういう形容詞がつくと通りやすいという現状もなきにしもあらずということで、むしろ強くここは、今、遺産に指定するということが緊急に重要だと思います。

座長 そういう完全性をどう補強していくかということで、学術的にそれだけ価値が高いのなら、これを登録する担保は一体何かというのは、むしろ次回に検討させていただいた方がいいのではない

いかと思います。生物相から見た価値は非常に高いというのが今のご意見だと思うのですけれども。

よろしいでしょうか、時計を見ながら、次に進めさせていただきます。

琉球列島については、これはまず、先ほどの事務局からのご説明にもありました琉球諸島をどういうふうな言葉でまとめるかというのも、それから地域の設定も多少問題にはなるでしょうけれども、そういうことも含めて、土屋委員にまず最初にコメントいただけたらと思います。

土屋委員 どの程度の広がりを対象にするかというのは、このお話があったときから悩んでおりました。それは、屋久島が既に登録されているからにはほかならないわけですが、南西諸島、あるいは琉球列島と言っても屋久島を含んでしまうことは、今までもさまざまな文献で明らかです。種子島、屋久島とを北琉球と呼んでいる書物はいっぱいあるわけですから、琉球諸島と呼んだとしても問題は解決できていないのではというのが、今日伺ったお話からの感触です。

屋久島は既に登録されているので、今回はそれ以外の場所を考えるというのが大前提なのでしょうか。それとも、屋久島を含めて、また新たに考え直すということは可能なかどうか、まずそこから確認させていただきたいのですが。

奥田（環境省） もちろんそれは先生方のご議論によるところだと思いますけれども、1つは、ポイントとしては、屋久島が登録されたときには列島弧としての価値は評価の対象になっていなかった。むしろ単体として垂直分布ですとか固有の生態系、それからすぐれた景観が評価されているということなので、そういう意味で、今回、列島弧として評価するときどこまでとったらいいかというのは、また別の議論だと思っています。先ほどもご説明したように、事務局として屋久島を除いて考えたというのは、屋久島は別の観点で既に指定されているので、別の観点でどうくっただらいいかというご議論をしていただきたいということが1つと、我々が学校で習ったような渡瀬線という大きな生物地理区分の線があるので、そこで区別をされるという判断が妥当であれば、そこから南でお考えいただくのがいいのではないかな、そういうご提案でございます。

土屋委員 地史的な面から考えると、渡瀬線があるからこそ、それより北側と南側の比較がおもしろくなって、また重要性も浮き彫りになってくるのではないかというふうにも考えられると思います。その観点からすると、全部総合して考えた方が、この地域の地史的な重要性、あるいはそれに伴って進化してきた生物の重要性は、よりはっきりしてくるのではないかというような感じを持っております。

それから、生物の進化、固有種については繰り返し述べられてきておりますので、もう繰り返さないでいいと思われるほど重要性はあると思っておりますし、クライテリアの 番にあります美しさという点でも、ちょっと高いところから見なければいけませんけれども、サンゴ礁の美しさは相当なものがあるかと思えます。あるいは島々がつくっている景観も魅力的ですので、ここで立候補するのに十分なものを持っているのではないかと思っております。ちょっと一般的ですけれども、最初に申し上げました。

大澤委員 番の頭にある暖温帯林というのは亜熱帯林とした方がいいと思います。

ここでは屋久島を含めて考えると、南限、北限がたくさんありますし、その海峡の意味がより明確になるということはあると思います。それはそれとして、屋久島があるということを考えると、トカラ以南を1つの群島として指定するだけの十分な価値があるし、また、それぞれの島嶼の固有種の特性についても、一体として考えた方がいいと思うので、私は渡瀬線以南の、呼び方は琉球列島という言葉そのものがちょっと難しい面を含んでいるとはして、そう考えた方がいいと思います。

吉田委員 この候補地の重要性は先ほど土屋先生からお話があったように、渡瀬線を挟んで、固有の生物が進化してきているということと、北緯30度付近は、世界中ではほとんど乾燥した地域であるのにもかかわらず、ここはモンスーンの影響で非常に湿潤な森林ができています。ここは非常にユニークなところで、やんばるだとか西表だとか、そういったところの重要性にかかってくる

と思いますので、そこら辺は強調していいと思います。

上野委員 私は初めから申し上げているのですけれども、琉球列島の中央部は北部、南部とひどく違う。重要性においても違う。ここにはアマミノクロウサギしか例としては出ていないですけれども、ノグチゲラとかヤンバルクイナとか、ルリカケスとか、リュウキュウヤマガメ、トカゲモドキ、それからイボイモリとか、陸生の骨のある動物、どれを取り上げてもここは固有種が多い。その固有種はまた両様あると思いますけれども、例えば日高山脈の固有種は、あそこで分化したもので、割合に近いところに似たものがある。ところが、この固有種は非常に古い固有種で、うんと離れたところにあるものもありますけれども、ほかに似たものがないんですね。だから、一口で固有種と言っても、琉球の中央部の固有種は大分違います。もちろん八重山諸島、琉球の南部にも固有種はかなりありますけれども、イリオモテヤマネコにしても、台湾のものと同じく違うわけではない。ほかの固有種、トカゲも固有種がありますが、やはり台湾のものと同じく違うわけではない。だから、世界中どこへ持って出ても、この固有種の多様性が大きいというのは琉球列島の中央部だけ、奄美大島と沖縄本島、それからそれに伴う幾つかの島だけだと私は思っています。これをひっくり返して考える場合は、やはり北から南までないと、トカラ海峡から南だけとった場合に、これをどう説明するのか、私にはよくわからないというのが本音です。

座長 最後のところ、もしひっくり返るとすれば、屋久島、種子島まで含めた方がということですか。

上野委員 そうですね。琉球列島全部として見れば、それはそれでおもしろいと思います。トカラ列島の北側までは九州北部からのものが随分入っていますし、物によっては奄美大島まで入っています。逆に南からのものもずっと入っているわけですね。南からのものだけとれば、八重山で終わっているもの、現在はいないけれども、宮古にいたことが分かっているもの、それから沖縄まで伸びているものというふうにだんだん少なくなっていくので、全体を取り上げれば説明はうまくつくと思うのですが、南半分だけ取り上げると、うまく説明がつくかどうかと私は思います。

座長 琉球全体、南西諸島全体にするか、奄美・沖縄にするかという考え方ですけれども、ほかの方はどうですか。

大澤委員 おもしろさとしては、まさに上野委員おっしゃるような意味合いで非常に特徴があると思うので、私が言った意見は、既に指定地があるということを考えてときに、そこで切るのが1つの切れ目としては意味があるかなという程度です。ですから、既指定地を含んだ形での指定というのが可能であれば、それはそれでいいと思います。

座長 土屋委員は先ほど屋久島も含めてというご発言でしたが、逆に奄美・沖縄に限ってというのももう1つの考え方だというのが上野先生の発言ですけれども、その辺も含めていかがでしょうか。

土屋委員 私は最初から全体でと頭から思い込んでおりましたので、奄美大島から南だけを取り上げた場合に、どう力説していこうかというのが悩むところです。昆虫を見ても、やはり島々にかなりおもしろい進化を遂げているものがたくさんありますし、上野先生がおっしゃらなかった部分で言えば、カエルの仲間もそれぞれ大変興味のある種分化を遂げておまして、これも全体で考えるとよりおもしろくなるということに変わりありません。ただ、南の方だけ考えると、海の方に目をやると、それなりの特徴は出てくるのかなと思います。この後、世界的な比較をして重要性を訴えていくことになりますけれども、サンゴの種数等を考えると、多いのは確かに南の方です。それを世界的に見ると、緯度としてこれほど北にありながら、これぐらいに多様に種分化が起こっている、あるいは海岸でのそのほかの生き物の、特にのクライテリアに当てはめられるような現象が幾つかあるという点ではおもしろさはあると思っています。

座長 そのほかご発言ございますでしょうか。もしなければ、もう1つ、海岸地形2つについて議論していただきたいのですが、冒頭に小泉委員から多少いただいたのですけれども、もう少し……。前回のときにあまり控え目におっしゃったので、つつい残らなかったということがあるので、少し積極的に発言していただけたらと思うのですけれども。

小泉委員 世界遺産全体で見ますと、海岸は割合に少ないですね。フィヨルドみたいな海岸を取り上

げるケースは比較的多いですがけれども、海岸の地形をもうちょっと積極的に取り上げていいと思うんです。ここには陸中海岸、山陰海岸、両方とも海食洞とか、いろんな浸食地形があったり、山陰海岸の場合は砂丘が出てきたりしますけれども、海岸地形そのものが非常に変化に富んでいるということが挙げられているわけです。ここにはあえて生物的な話は全然出ていないですが、例えば陸中海岸ですと海鳥が非常に豊かだったり、北から来る生物と南から北上していく生物が、ちょうどこの辺で混じり合ってきたり、いろんなことがここで出てくるわけです。ですから、特に固有種がここに非常に多いということにならないと思うのですけれども、北限の植物、あるいは南限の植物、そういった点から見ていくと、陸中海岸というのはかなりリストアップがいっぱい出てくると思います。詳細検討対象地域の関連データ一覧が資料3に出ていますけれども、これを見ていきますと、例えば陸中海岸は天然記念物の数とか、淡水魚の数だとか、鳥類の種数、哺乳類の種数、結構多いですね。特にものすごく特徴的というのはないと思うのですけれども、レッドデータブックの数を見ていきますと29とか、そういった形になっています。ですから、ここは思ったよりは生物的にも多様性に富んでいるのが1つの特徴ではないかというのがあると思います。

山陰海岸の方は、日本の海岸の代表的な場所だと思うのですけれども、もうちょっと生物の面をつけ加えていくとすれば、例えば照葉樹林、数は多くないのですが、北の方の照葉樹林として、結構まだばらばらいろんなところに残っているという特徴があります。これは随分減ってしまったのですけれども、その辺が1つの特徴としては挙げることができると思います。それから、砂丘などというものが世界遺産の方でどんなふうの評価されてきているかわからないのですけれども、砂丘はやっぱ砂丘で、それなりの生物の豊かを持っています、今まで世界遺産のところでは砂丘みたいなものを含むというのは案外挙がっていないような気がします。海岸の多様性は、日本の場合は非常にすごい海食崖や洞門みたいな岩礁の切り立ったような地形から砂丘までいろいろ変化に富んでいるわけですし、この辺もほかに案外ないような売り物になるのではないかというふうな感じが私はしているわけです。それから、山陰海岸はあえて言うと、城崎の温泉があって、そのそばに神鍋火山というちょっと珍しい火山があるのですけれども、もしかしたらその辺も含めて考えた方がいいのかなというふうな感じもちょっとしています。それだけご説明させていただきました。

座長 どうもありがとうございました。ほかの委員の方から……。

上野委員 ちょっとお尋ねしたいのですけれども、陸中海岸はとにかくとして、山陰海岸の方は、現在どれくらい自然の状態が残っていますか。

小泉委員 自然の状態というと、随分改変が進んでしまったものですから、かなり厳しいところがありますね。ただ、陸上を旅行していると、もう人がたくさん住んでいる場所ですけれども、海の方から見ていった場合は、それなりに手つかずなところもまだかなり残っています。浸食地形だとか砂丘もあるわけですが、非常に行きづらいところがあるものですから、そういう意味ではちょっとマイナスが多いと思うのですけれども、むちゃくちゃにあれされているわけではなくて、海の方から見る場合と内陸から旅行した場合と、印象が随分違ってしまいう格好になると思います。

上野委員 わかりました。ありがとうございました。

土屋委員 これも質問なのですが、三陸のいろいろな海岸を歩いていて、景観的に素晴らしいところだというのは前から感じておりましたけれども、生物的には世界的な比較ができるほど素晴らしいものが存在するかということ自信がないところです。ただ、言葉として陸中海岸と呼ぶと、いわゆる陸中だけが入ることにはならないかという心配があります。陸前とか陸奥とかいうような広がりを持たせた方が、名称としては適当ではないかという感じがしていたのですが、いかがでしょうか。

座長 どれくらいの範囲をカバーされているのかというので、ちょっとコメントをいただけたらと思

います。

小泉委員 すみません。陸中海岸というよりは三陸海岸と呼んだ方がいいかもしれません。もっと広い意味で私も考えていたのですが、ここに出てきたのを見ると、確かに陸中海岸は出ていますけれども、その辺はちょっと不注意だったと思います。三陸海岸というふうに直していただいた方がよるしいような気がします。

座長 ほかに特にコメントございませんでしょうか。

時間が限られていますので、大急ぎで一通り地域ごとに見ていただいたということですが、全体を見終わったところで、全体の中から、あるいは先ほど先へ進んでしまって言い落としたが、というようなコメントがありましたら、いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

小泉委員 実は非常に面積が小さくて、特に目立つものでないので、ちょっと遠慮していたのですが、愛知県の犬山のところに木曾川沿いですが、古生代の末期の大量絶滅の模式地になった場所があります。それは今まで何の変哲もない場所だと思われていましたが、今、東工大におられると思うのですが、丸山先生とかその他の方で、古生代の末期に、地球で史上最大になると思うのですが、95%ぐらいの生物が死滅してしまったというすごい事件が起こっています。それは恐竜の滅亡したときよりもはるかに絶滅の程度が高いのですが、それを示している地質的な証拠が、その木曾川の川沿いにあります。それは今までは本当にどうってことない、せいぜい言えば日本ラインの一番上流ぐらいのところに当たっていたのですけれども、さっきの世界遺産の基準でクライテリア 番のところ、生命の記録、地球の歴史の主要な段階を示す顕著な見本であることというのに、もしかしたら該当するかもしれないですよ。長さで言えば、木曾川沿いのせいぜい数百mぐらいの幅ですから、ものすごく小さい場所ですが、もしかしたらということですが、本当にそういう意味で言えば、大量絶滅のまさに模式地みたいな場所であるということが、ごく最近、ここ10年くらいだと思いますけれども、ある意味で発見されたので、候補地になり得るのかなという気もします。それは前回全然申し上げなくて申しわけないのですが、急な話なのですが、もしかしたら検討の余地があるのかという……。私はその辺をどこまで推せるかわからないので、吉田さんあたりがそういったところに話が詳しいと思いますので、もしコメントできたらお願いします。

座長 面積などの要件も含めて、吉田委員からコメントいただけますか。

吉田委員 世界的にそこにしかないということであればどうなのかなとは思っていますが、例えばバージェス頁岩の化石があるカナディアンロッキーの国立公園なんかは世界遺産になっていますね。ですから、そういうような意味合いなのだと思いますが、面積的にはどうなのでしょう。そんなに小さな自然遺産というのは聞いたことがないというのは、今までの知っているところではそういうことなのだと思いますけれども。

小泉委員 点みみたいなものですからね。

大澤委員 違う話題でいいでしょうか。

座長 今のをあくまで調べてもらった方がいいというふうに小泉委員が主張されるかどうか、日本では非常に大きい発見かもしれませんが、世界的に見て、それが推せるのかどうかというあたり...

...

小泉委員 もしかしたら意外に世界的に見て非常に珍しい場所ではないかと思います。多分、丸山さんたちも、世界中いろいろ探し回った上で、考えてみたら日本の木曾川のところに実はあったという形になって、それでそこを調査地域にしたと思うのです。ですから、世界的なレベルで見ても、もしかしたら意外に価値があるのかもしれない。どうやって調べていいかわからない。それは私も調べてみますけれども、もしどなたか少しそういった点に詳しい方がおられたら、あるいは事務局の方でも、場合によっては化石山地で非常に小さいものが特異な場所として世界遺産に指定されているところもあるのではないかと思います。ちょっと私も詳しく分からないものですから、もしできたら、その辺も調べていただければありがたいのですが。

座長 最初のお話では、内陸では大体50km<sup>2</sup> ぐらいが最低というふうにご説明があったと思うのですけれども。

奥田(環境省) 最初に確認したのは、主に生態系を中心とした観点での世界遺産で調べたものから、小泉先生のご指摘のとおり、非常に特殊な観点での世界遺産になりますと、小さなところはないわけではないと思います。それがどう評価できるかの問題かと思えます。

座長 そうかもしれない、のではなしに、本当に世界的なものであるかどうかという学術的なところを小泉委員の方にも少しお調べいただいて、もしそうなら、もちろん話題として取り上げるべきだと思うのですけれども、次回までにご検討いただくということをお願いします。

小泉委員 次回までに調べてみます。

大澤委員 今日の議論を踏まえて、もう1度戻りますが、常緑樹林のところですが、12番が非常に漠とした九州中央部の山地一帯みたいな候補として挙がっていたのですが、面積的には非常に小さいとしても、現状で国内で非常に重要な照葉樹林が残っているところというのと、やっぱり九州の中でも大森岳を中心とした綾のあたりが挙がってくると思うのですが、例えば12番をそういう形で範囲を設定し直して、候補として考えるのはいかがでしょうか。そこは、今日お配りいただいた資料によると国立公園にはなっているようですが、白髪岳というのはもうちょっとつながるのかなと思ったらかなり離れているので、それを含めることはちょっと無理かと思えます。霧島とも直接的なつながりを持たせるのは無理だし、白髪岳も霧島も両方とも、照葉樹林ということでは本来ない形で指定されたり、候補として挙げられたわけですが、もう少し照葉樹林というものの重要性に着眼して、12番をそういう形で変えるか、あるいは追加で1つどっかに加えていただくかということはいかがでしょうか。

座長 むしろ大澤委員が、この地域をこういう形にしたら学術的にふさわしい部分として推せるのではないかという、そういう具体的な提案をしていただいた方が……。今でなくても、ひょっとしたら次回までにそういうふうに整理をしていただくというのでもいいのではないかと思えます。

大澤委員 直接的に私は資料を持っていないので、もし事務局で可能性のありそうな、宮崎県の奥の、お配りいただいたところでは大森岳周辺に点々と四角いのがあるのと、その北にちょっと離れています、やはりあるので、その辺が、指定をするとしたときの技術的な問題は確かに残るとは思うのですが、照葉樹林の重要性ということはさんざん申し上げたので、むしろその辺の観点から調べて……。というのは、1つにはカナリア諸島の照葉樹林はガラホナイという、ゴメラという小さな島の山頂付近の本当に限られた範囲です。だけどヨーロッパでは抜群の価値があって、狭いけれども指定されて、そこはかつては薪炭にも利用されていたような島です。そういうものが一方で西の方に指定されていて、東アジア、特に日本の中でそういうものに対応するものが全く含まれていないというのは、非常に一面的な感じがするものですから、重要性についてはもうさんざん申し上げているので、むしろ技術的なところでお調べいただくということでも構わないかと思えます。

座長 今日の議論を踏まえて、次回までに、幾つか事務局にまた整理をお願いしないといけないことが出てくると思うのですが、そういうことの中に学術的な価値を訴えるためには地域をどうはつきりさせるかというようなことも含まれてくるかと思えますので、整理をされる段階でまた事務局の方から大澤委員に連絡をしていただいてということを進めていただければと思います。

上野委員 それに伴って調べになるときに、綾の部分だけ区切った場合、面積はどれくらいになるか、それから御蔵島だけ取り上げて区切ったらどれくらいの面積になるのが調べて、次のときに教えていただきたいと思えます。

座長 今すぐは分かりませんか。

奥田(環境省) 前回の検討会の資料の資料5に50km<sup>2</sup> 以上の重要地域リストを一覧表を載せてございます。その中にはA365という番号のついたところで、綾・掃部岳北西稜カシ林という区域

が、環境省の選んだ重要生態系としては載っております。ということは、ここの区域は50km<sup>2</sup>以上のまとまりを持っているという評価をしてございますけれども、ただ、このときの取り上げた機械的作業の中では、自然植生とか自然性の高い二次林とか水面の割合が54%というデータが出ておったり、道路密度が1km<sup>2</sup>当たり3.37という数値がこの表では出ております。ですから、かなり具体的な地域を絞らないと、どう評価していいかというのは難しいところもでございます。先ほど吉田委員のご説明にあったとおり、広くとれば改変度が高くなりますし、原生的なところをとろうとすると狭くとらざるを得ないというような難しさがあるかと思えます。

座長 そのほか特にご発言ございませんでしょうか。

限られた時間の中で随分いろんなご発言をいただいたわけですが、今もちょっと申し上げましたように、幾つかの地域では地域というのが確定していないので、ここの議論では学術的な価値があるということを中心に今日は発言をしていただいたのですが、最初の事務局のご説明にもありましたように、完全性に関しては、ところどころでご発言はありましたけれども、今日は非常にきっちりと詰めるということはしませんでした。今ご発言があったような学術的な価値を、もう1度4つのクライテリアにどう合わせるかというのを整理をしていただいて、その上で完全性の評価をどうしていけるかというあたりを次回までにはぜひ整理をしていただいて、それで最終的な検討に入れたいと思います。その際、地名表記も含めて、地域をどう詰めていくか、特に完全性とのかかわりで、今の綾の地区のところでのご説明にもありましたように、どう区切れればどうなるかというようなことが見えてくるように、いろいろ難しい宿題をたくさん出しますけれども、そういうところも整理をしていただいて、次回にはこの委員会としての最終的な結論を出させていただければと思います。事務局が詰められる際に、各委員にいろいろコメントを求められることもあるかと思えますので、資料なども含めてご協力いただけたらと思います。

何かそのほかコメントをいただくことはございますでしょうか。吉田委員、詰めのところできょうということがぜひ必要だというふうなことを今ご発言いただけたらと思いますが、何かございますか。

吉田委員 先ほど言いましたので……。

座長 それじゃ、次回までにそういうことを詰めていただくということで、特にご発言がなければ、これで終わりにさせていただいてよろしいでしょうか。

それでは、本日はどうもありがとうございました。これで終わりにさせていただきます。あとは事務局の方から……。

田部（環境省） どうもありがとうございました。次回の開催日程でございますけれども、事前に事務局の方から委員各位にご都合を伺っているところですが、5月26日の午後がご都合のつく方が最も多うございましたので、第4回の検討会を5月26日月曜日、午後から3時間程度というぐらいに考えておりますけれども、開催したいと思っておりますが、いかがでございましょうか。

よろしければ、次回、5月26日ということで、第4回目、できれば最終ということになるかと思うのですが、開催することにしたいと思っております。詳細につきましては、追って事務局から各委員に差し上げることにしたいと思っております。

本日はどうも長時間にわたりましてご審議をいただきましてありがとうございました。これももちまして第3回目の検討会の議事を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

了